

## 【テーマ】

新人看護師の入職初期の臨床実践能力を規定する要因に関する研究  
—中堅看護師からの支援に着目して—

## 【目的】

新人看護師の臨床実践能力を規定する要因として「中堅看護師からの支援」に着目し、これが新人看護師の入職初期の臨床実践能力にどのように影響を及ぼしているかを実証的に検討することである。

## 【方法】

第1フェーズで質問紙調査、第2フェーズで面接調査をおこなう混合研究法とした。研究の実施に同意を得た5病院に勤務する新人看護師314名に対して「臨床実践能力」および「中堅看護師（経験年数5年以上の管理職ではない看護師）からの支援」等について無記名自記式質問紙調査を実施し留め置き法で回収した。その後、質問紙調査の結果の理解を深めるため、質問紙調査実施病院のうち4施設に勤務する中堅看護師6名に対し半構造化面接調査を実施した。質問紙調査の分析は「中堅看護師からの支援」を独立変数、「新人看護師臨床実践能力」の12の下位尺度それぞれを従属変数とした階層的重回帰分析をおこなった。本研究はA大学研究倫理審査委員会、研究対象施設1施設の研究倫理審査委員会の承認を得た。

## 【結果】

質問紙調査では、新人看護師262名（有効回答率83.4%）から有効回答を得た。新人看護師臨床実践能力の12の下位尺度のうち「主体的な自己学習」が「内省支援」から、「患者・家族の理解と支援」が「目標支援」と「内省支援」から、「組織理解と適切な行動」が「精神支援」から、「安全確保」が「内省支援」から、「物品・コスト管理」が「業務支援」から、「情報・安全管理」が「内省支援」から有意な正の影響を受けていた。さらに、新人看護師の「安全確保」、「物品・コスト管理」、「業務管理」、「情報・安全管理」の能力において、支援をおこなう「中堅看護師の経験年数」が有意な負の効果を示した。これらの結果について、面接調査でも解釈を拡げる発話を得た。

## 【考察】

中堅看護師からの支援は、主に新人看護師の基本姿勢と態度および管理的側面に関する能力向上に正の影響を示していた。これらの能力の向上に資する支援には、高い臨床実践能力が必要と考えられ、特に「内省支援」はプリセプターの臨床実践能力レベルでは支援が不十分になり得る可能性が示唆された。技術的側面については、プリセプターや若手の看護師なども含めて業務中、その日に勤務している看護師から適宜支援を受けている可能性が考えられる。また、中堅看護師の中でも経験年数の少ない看護師の支援が新人看護師の臨床実践能力を高めることが示唆された。

\*以下に掲載

保田江美・中原淳（2014）新人看護師の入職初期の臨床実践能力を規定する要因に関する研究—中堅看護師からの支援に着目して—日本看護学教育学会第24回学術集会講演集，